

送信先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@obihiro.ac.jp 帯広畜産大学 畜産

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つに至りました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学大学院薬学系研究科 平成 22 年 10 月 26 日役職・氏名 (自 署) 遺伝学教室教授 三浦 正幸講師 倉永 英里奈助教 山口 良文講師 千原 崇裕博後 中嶋 悠一朗博士 関根 清重

送達先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@obihiro.ac.jp 帯広畜産大学 嘉穂

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つに至りました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にあります。DGRC の運営に変わぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名

東京大学・分生研

平成 22 年 10 月 2 / 日

役職・氏名 (自 署)

教授・多田 哲也

助教・村上 智史

助教・山崎 大介

学生・阿部 崇志

学生・新田 陽平

学生・河盛 治彦

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、こゝとショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものがあります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変わぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 10 月 25 日

役職・氏名 (自 署)

教授・一條 秀憲

准教授・武田 弘資

特任研究員・西頭 英起

特任准教授・松沢 厚

助教・名黒 功

特任助教・早河 輝幸

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものがあります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にあります。DGRC の運営に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 11 月 10 日

役職・氏名 (自 署)

准教授・武山 健一

D3 林 玲衣

博士研究員・木村 周平

博研職員・鈴木 絵里子

特任研究員・伊藤 和彦

特任研究員・田辺 真希

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 11 月 3 日

役職・氏名 (自 署)

准教授・川島 敏也

特任研究員・引場 樹里

大学院生・名取 恒平

学生・五嶺 史彦

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものがあります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 11 月 2 日

役職・氏名 (自 署)

准教授 池 幸男

助教 泉 奈津子

学振 特別研究 石川 弘富

DC2 Kwak, Peter Bas

D3 岩崎 信太郎

D2 依田 真由子

送信先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@oblhiro.ac.jp 帯広畜産大学 畜産

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つに至りました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変わぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京工芸新領域 能研研

平成 22 年 10 月 26 日

役職・氏名 (自 署)

助教 高坂 洋史

M2 中川 義章

M1 澤井 貴史

M2 濱谷 裕樹

助教 高須 悦子

技術補佐 直井 紀枝

送信先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@obihiro.ac.jp 帯広畜産大学 畜産

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所屬機関名 東京大学大学院理学系研究科 平成 22 年 10 月 26 日

役職・氏名 (自 署) 遺伝学教室

学術支援職員 磯村 綾子

学部4年 徐 213

修士1年 岡村 美穂子

博士2年 小嶋 文明

学術支援職員 原。朱夏

特任研究員 石原 日子

送信先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@obihiro.ac.jp 帯広畜産大学 高橋

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものがあります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学大学院薬学系研究科 平成 22 年 10 月 26 日役職・氏名 (自 署) 遺伝学教室学術支援職員 佐々木 美智子

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学

学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものがあります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 10 月 25 日

役職・氏名 (自 署)

特任研究員 関根 悠介

大学院生 加藤 久美子

大学院生 早川 亮一

大学院生 畑中 良

学部生 モサラネジャッド 健太

大学院生 坂 辺 豪

送信先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@obihiro.ac.jp 帯広畜産大学 函館

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つに至りました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものがあります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変わぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学大学院薬学系研究科 平成 22 年 10 月 26 日役職・氏名 (自 署) 遺伝学教室修士課程 2 年 篠塚 直美学部 4 年 斎藤 佳絵学術支援職員 日岡 梨実学部 4 年 宮沢 英延修士 2 年 鹿田 浩一学術支援職員 富岡 桂

送信先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@obihiro.ac.jp 帯広畜産大学 畜産

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学大学院薬学系研究科 平成 22 年 10 月 26 日

役職・氏名 (自 署) 遺伝学教室

博士課程 2 年 野村 恵子

博士課程 1 年 中車 知広子

博士課程 2 年 武石 明佳

博士課程 1 年 吉田 綾子

博士課程 1 年 明 銘

修士課程 2 年 森本 迪恵

送信先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@obihiro.ac.jp 帯広畜産大学 畜産

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変わぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学 新領域 能瀬研

平成 22 年 10 月 26 日

役職・氏名 (自 署)

大学院生 稲田 健吾

大学院生 板倉 由季

大学院生 奥沢 咲子

大学院生 依江 彬

教授 能瀬 聡直

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つに至りました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変わぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 10 月 25 日

役職・氏名 (自 署)

大学院生 丸山 剛

大学院生 片桐 一美

大学院生 荒木利博

大学院生 佐藤剛裕

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものがあります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 10 月 25 日

役職・氏名 (自 署)

大学院生 水上 雅哉

大学生 神山 美樹

大学生 圓谷 奈保美

大学院生 山下 下弥子

大学院生 村上 史織

大学院生 岡田 匡夫

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学
学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものがあります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 10 月 25 日

役職・氏名 (自 署)

大学院生 丸山 慎一

大学院生 小出 真季

大学院生 清水 裕

大学生 池田 和弘

大学院生 服部 一輝

大学院生 渡邊 謙吾

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学

学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものがあります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変わぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 10 月 25 日

役職・氏名 (自 署)

大学院生 石川 洋輔
特任研究員 門脇 寿枝
大学院生 本間 謙吾

特任研究員 渡辺 順子
大学院生 藤澤 貴央
大学生 山口 奈美子

要 望 書

国立大学法人京都工芸繊維大学

学長 江島 義道 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存センターの存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故従来から系統保存センターの存在はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 11 年に京都工芸繊維大学がショウジョウバエ遺伝資源センター (DGRC) を設立し、幸いにも日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つに至りました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。DGRC は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える専任施設を設置運営する京都工芸繊維大学の高い見識に敬意を表するものがあります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。DGRC は文部科学省令施設の恒久的専任機関として設置され、国内随一の充実した専用施設を持っています。このような経緯や特性を生かし、さらに発展させるために、今後も京都工芸繊維大学が継続して運営を行って頂く事を強く希望いたします。今後も日本の基礎科学研究を支える DGRC の活動に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、DGRC の運営に変わぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 11 月 2 日

役職・氏名 (自 署)

D2 包 明久

M2 深谷 雄志

Research student Juan Gmo. Belonier

M2 小林 真希

D2 河岡 慎平

送信先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@obihiro.ac.jp 帯広畜産大学 富樫

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト

推進委員会主査

情報・システム研究機構国立遺伝学研究所

所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP「ショウジョウバエ」(代表: 山本雅敏) が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にあります。NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学大学院理学系研究科

平成 22 年 10 月 26 日

役職・氏名 (自 署) 遺伝学教室教授 三浦正幸講師 倉永英里奈助教 山口良文講師 千原崇裕博助 中嶋悠一郎博士 関根清葉

送信先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@obihiro.ac.jp 帯広畜産大学 高橋

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成14年にナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とするNBRP「ショウジョウバエ」(代表:山本雅敏)が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支えるNBRP事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支えるNBRP事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学・分生研平成22年10月21日

役職・氏名(自署)

教授・多利田 哲也助教・村上 智史助教・山崎 大介学生・阿部 崇志学生・新田 陽平学生・河盛 治彦

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP「ショウジョウバエ」(代表: 山本雅敏) が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 10 月 25 日

役職・氏名 (自 署)

教授・一條 亨

准教授・武田 弘資

特任研究員・西頭 英起

特任准教授・松沢 厚

助教・名黒 功

兼任助教・早河 輝幸

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP「ショウジョウバエ」(代表：山本雅敏) が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つに至りました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 / 1 月 / 10 日

役職・氏名 (自 署)

准教授・武山 健一
D3 村 玲奈
博士研究員・木村 周平

博士研究員・鈴木 絵里子
特任研究員 伊藤 紗弓
特任研究員 (附) 池 真希

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP「ショウジョウバエ」（代表：山本雅敏）が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にあります。NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 11 月 3 日

役職・氏名 (自 署)

准教授・小原 雄治

大学院生・名取 恒司

副・田嶋 雄

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP「ショウジョウバエ」(代表：山本雅敏) が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 11 月 2 日

役職・氏名 (自 署)

准教授 泊 幸秀

助教 泉 奈津子

学術総務 志川 弘直

D2

Kwak, Peter Bas

D3 岩崎 信太郎

D2 依田 真由子

送信先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@obihiro.ac.jp 帯広畜産大学 嘉穂

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP「ショウジョウバエ」(代表: 山本雅敏) が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学新領域'能'研

平成 22年 10月 26 日

役職・氏名 (自 署)

助教 高坂 洋史

M2 中川 義章

M1 澤井 貴史

M2 濱谷 裕樹

助教 高須 悦子

技術補佐 直井 紀枝

送信先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@obhihiro.ac.jp 帯広畜産大学 嘉穂

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成14年にナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とするNBRP「ショウジョウバエ」(代表:山本雅敏)が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支えるNBRP事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支えるNBRP事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にあります。NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所屬機関名 東京大学大学院薬学系研究所

平成22年10月26日

役職・氏名(自署) 遺伝学教室修士課程2年 篠塚直美学部4年 宮沢英延学部4年 倉藤佳絵修士2年 鹿田浩一学術支援職員 富岡 桂学術支援職員 磯村綾子

送信先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@obihiro.ac.jp 帯広畜産大学 嘉穂

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP「ショウジョウバエ」(代表: 山本雅敏) が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学新領域 能瀬研

平成 22 年 10 月 26 日

役職・氏名 (自 署)

大学院生 稲田 健吾

大学院生 板倉 由季

大学院生 伏木 林

大学院生 奥沢 暁子

教授 能瀬 聡志

送信先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@oblhiro.ac.jp 帯広畜産大学 嘉穂

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成14年にナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とするNBRP「ショウジョウバエ」(代表:山本雅敏)が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つに至りました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支えるNBRP事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支えるNBRP事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学大学院薬学系研究所

平成22年 10月26日

役職・氏名(自署) 遺伝学教室

学術支援職員 佐々 美智子

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP「ショウジョウバエ」(代表：山本雅敏) が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にあります。NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 10 月 25 日

役職・氏名 (自 署)

特任研究員 関根悠介

大学院生 加藤 久美子

大学院生 早川 亮一

大学院生 畑中 良

学部生 モサプロジェクト 健太

大学院生 渡辺 毅

送信先：FAX：0155-49-5643 Eメール：kanuka@obihiro.ac.jp 帯広畜産大学 函館

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成14年にナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とするNBRP「ショウジョウバエ」(代表：山本雅敏)が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つに至りました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支えるNBRP事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支えるNBRP事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学大学院理学系研究科

平成22年10月26日

役職・氏名(自署) 遺伝学教室博士課程2年 野村 志子博士課程1年 安東 和志子博士課程2年 武石 明佳博士課程1年 高田 綾子博士課程1年 明 銘修士課程2年 森本 迪恵

送信先: FAX: 0155-49-5643 Eメール: kanuka@oblhiro.ac.jp 帯広畜産大学 葛城

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP「ショウジョウバエ」(代表: 山本雅敏) が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にあります。NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学大学院薬学系研究所

平成 22 年 10 月 26 日

役職・氏名 (自 署) 遺伝学教室学術支援職員 日国 愛実学部 4 年 徐 215修工 4 年 岡村 天由子博工 2 年 小幡 史明学術支援職員 原 口 朱夏特任研究員 藤井 日子

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成14年にナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とするNBRP「ショウジョウバエ」（代表：山本雅敏）が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支えるNBRP事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支えるNBRP事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にあります。NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成22年10月25日

役職・氏名（自署）

大学院生 小田 剛

大学院生 荒木 利博

大学院生 佐藤 剛裕

大学院生 片桐 一美

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP 「ショウジョウバエ」 (代表：山本雅敏) が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP 「ショウジョウバエ」 は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にあります。NBRP 「ショウジョウバエ」 事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 10 月 25 日

役職・氏名 (自 署)

大学院生 水上 潤哉

大学生 神山 美樹

大学生 圓谷 奈保美

大学生 山下 淑子

大学院生 村エ 聖哉

大学院生 岡田 匡夫

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP 「ショウジョウバエ」 (代表: 山本雅敏) が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP 「ショウジョウバエ」 は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にあります。NBRP 「ショウジョウバエ」 事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 10 月 25 日

役職・氏名 (自 署)

大学院生 丸山 慎一

大学生 池田 和弘

大学院生 服部 一輝

大学院生 小出 真季

大学院生 清水 裕

大学院生 渡邊 謙吾

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP 「ショウジョウバエ」 (代表: 山本雅敏) が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP 「ショウジョウバエ」 は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にあります。NBRP 「ショウジョウバエ」 事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 10 月 25 日

役職・氏名 (自 署)

大学院生 石川 洋輔

特任研究員 門脇 寿枝

大学院生 本間 謙吾

特任研究員 渡辺 順子

大学院生 藤澤 貴央

大学生 山口 奈美子

要 望 書

ナショナルバイオリソースプロジェクト
推進委員会主査
情報・システム研究機構国立遺伝学研究所
所長 小原 雄治 殿

生命科学の諸研究分野において、ショウジョウバエを用いた研究が先端的な位置を占めている最大の理由は、膨大な遺伝変異系統を縦横に利用できることにあります。そのような多くの系統を研究者が個々に全て維持することは不可能であり、系統を確実に維持保存し、リクエストに応じて迅速に供給する系統保存事業の存在は研究の命脈を握っているといえます。それ故、従来から系統保存事業はショウジョウバエ研究に不可欠なものであり、欧米、ことにアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターは世界の系統供給の中心的な役割を果たしてきました。

平成 14 年にナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP) が発足した当初から、京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センターを代表機関とし、情報・システム研究機構、愛媛大学、杏林大学を分担機関とする NBRP「ショウジョウバエ」(代表：山本雅敏) が採択されました。これにより日本のショウジョウバエコミュニティはアメリカ合衆国のショウジョウバエ系統保存センターに比肩しうる世界最大規模の系統保存センターを持つにいたりました。日本のコミュニティは本事業を誇りに思うと同時にその貢献に大変感謝しています。NBRP「ショウジョウバエ」は日本のみならず世界に系統を供給しており、世界の科学研究に対する日本の大きな貢献の一つであるともいえます。以前喧しかった、「日本の基礎科学ただ乗り論」に対して、ことショウジョウバエの系統保存に関しては、日本は世界に大きく胸をはれることになりました。加えて、生物資源争奪が盛んになった最近の世界情勢を鑑みるに、日本独自の系統保存センターを持つことは戦略的に大きな意味があります。このような困難な時代に基礎科学を支える NBRP 事業を推進するという高い見識に敬意を表するものであります。

系統保存センターの運営は一過性のものでなく恒久的に継続させることが肝要であることは論を俟ちません。今後も日本の基礎科学研究を支える NBRP 事業の恒久的な継続に期待するとともに、コミュニティとして最大の協力を続けていく所存です。

日本の基礎科学研究を取り巻く環境は依然として困難な状況にありますが、NBRP「ショウジョウバエ」事業に変らぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

所属機関名 東京大学

平成 22 年 11 月 2 日

役職・氏名 (自 署)

D2 包 明久

M2 深谷 雄飛

Research student Juan Guino Betancor

M2 小林 真希

D2 河岡 慎平